

# NJ 素流協 News

令和 8 年 3 月 10 日 第 254 号

令和 8 年 3 月 10 日 発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園 1 丁目 3-6 (農林会館 5 階)  
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>

## ノースジャパン素材流通協同組合 令和 7 年度先進地視察研修 in 島根・鳥取県

2月17日(火)～19日(木)、島根県及び鳥取県にて令和7年度先進地視察研修を行い、組合員22名、NJ素流協職員6名、合計28名が参加しました。

今回は、東北にゆかりのある山陰地方の工場を視察しました。

### 《視察①》株式会社出雲木材市場(島根県出雲市)

株式会社出雲木材市場は、1996年に木材委託販売単式市場を設立し、1992年に鉄道の高架事業等によって本社を移転。現在の従業員数は14名。

東北産の針葉樹、広葉樹を幅広く取り扱っており、東北と西日本の国産材サプライチェーンの拠点として多様なニーズに対応した木材市場です。

### 【出雲木材市場について】

原木市は、市売日(毎週水曜日)、特別市(月に1回開催)を開催。年

間を通じて国産の針葉樹、広葉樹原木の中で最も価値の高い銘木から選木丸太を多量に取り扱う大型市場で、最新の設備を備え国産材から輸入原木の流通基地として地元をはじめ西日本エリアで取引されています。

また、構造物材から銘木製品の「製品の市」も行われており、産地メーカーなどのニーズに対応しています。



市場には東北からの広葉樹がありました!

8年前から、熱処理天然無公害木材「E's Wood」の製造・販売を開始しました。この製品は、薬品を一

切使用せず、無公害木材を窒素加圧熱処理(200℃以上で窒素加熱)することで、防腐・防虫・耐水・断熱・耐久性・形状安定に優れた特徴があり、屋外に強い天然新素材として、ウッドデッキやフェンス、外構材等の利用で注目を浴びています。

住宅構造の変化(大壁造りの普及)により、以前より見た目の美しさを求めない傾向が強まり、丹精込めて育てた良質な材が、一般材と同じ安値で取引される現状に強い危機感を抱いたことが、製品開発につながったとのことで、森林整備の成果を無駄にせず、正当な価値(高付加価値)をつける仕組みを構築しなければならぬとのこと。

また、一般住宅だけでなく、公共施設やメンテナンスが重要なビル・マンションへも事業展開し、高品質な木材が正しく評価される市場を広げていくこと。これまでチップとして安価に処理されていた広葉樹を単なる原料としてではなく、より高い付加価値を付けた素材として世に送り出していきたい、その「新たな価

値創造」として、薪ストーブ用、ピザ用、焼き菓子用、ステーキ店などで薪が使われるようになり、今では、建築用の針葉樹よりも広葉樹の方が高値で取引されるということです。

【市場の役割について】

● 拠点としての役割

単なる売り場ではなく、情報発信の基地として機能させ、市場流通に乗せていく準備を進めています。

● 需給の調整役

川上（山側）の供給と、川下（製材工場・合板工場・バイオマス発電所など）の需要を繋ぐ「交通整理」の役割を果たします。

● 価値の創出

単に「高い・安い」で判断するのではなく、木材の真の価値を認め、新しい価値を生み出せる場所であることを目指しています。

● 相場の形成

市場が適切に機能することで、地域における適正な相場を作る拠点となり、必要不可欠な存在であり続ける。

市開催の前日であったことから、

土場には東北からの「マツ」、タモ、「モミ」、「クルミ」の出品がありました。



窒素加圧処理窯



市場土場にて集合写真

《視察②》株式会社日新 本社工場（鳥取県境港市）

株式会社日新は1998年に設立され、現在、山陰エリア（本社工場、第二工場、第三工場、湖北工場）、四国工場、三重工場の6工場と、研究施設1施設で生産と研究を行っています。

従業員は、総勢564名で平均年齢38・2歳、中でも、三重工場は30・2歳と非常に若く、中途採用含め、大学の新卒者、高卒の新卒者を中心に採用しています。

【業務内容】

長尺を含む構造用合板、フロー台板、塗装用型枠用合板、造作用（壁下地材、窓枠、ドアの芯材等）、特殊なサイズの合板（壁の材料、家の材料）製造・販売。

【取引先】

ハウスメーカー等住宅会社、建材メーカー、プレカット、2×4コンポネント、建材商社、流通問屋等に供給。

【生産量】

年間の生産量は全体で約55万㎡／

年、工場別に山陰工場（332万㎡）、四国工場（13・7万㎡）、三重工場（約8万㎡）、本社工場は360㎡／日。

【原木の消費量】

原木消費量は、76万㎡／年で、9％は外材（カナダからダグラスファー）を3〜4ヶ月に1回のペースで輸入しています。その他の約90％は国産材で合板を生産しています。

以前はラジアータパインをニュージーランドから輸入し、階段の部材等で使っていましたが、近年2階建ての需要がだんだん平屋需要にシフトしてきたことから、ラジアータパインは輸入せず、代替えて国産スギを使用しているそうです。

【工場別の樹種量】

- 山陰工場…スギ、ヒノキ、アカマツ（東北産）で約40万㎡
- 四国工場…スギ、ヒノキ18・5万㎡で、かつては外材を使用していましたが、生産コストを見直し、すべてヒノキに転換、2020年からは100％国産材になっています。
- 三重工場…スギ・ヒノキ、年間約10万㎡の国産材を使用。内陸部に位

置するため、外材が使えないという観点から100%国産材を使用しているそうです。

【国産材の集材】

山陰工場は、兵庫県30%、島根県30%、九州18%、鳥取12%、九州南部(宮崎県、鹿児島県、熊本県)からヒノキを中心に、ほとんどが4m材を内航船で運搬しています。15年ほど前まではバージ船で貯木場に引船していたそうですが、今は輸送コストを下げる取り組みとして、工場に隣接するところにプライベートバースを設けて工場に搬入する計画を進めているそうです。

四国工場は、地元徳島県から約60%、九州から24%(内航船)主に4m材。三重工場は、地元の協力体制が整っていることから、約75%は三重県内から、約25%は隣県から供給。

南洋材の入荷不安・内装材から構造用への需要の高まりにより、製品は主に構造用が主体で、続いて造作用・型枠として供給しているそうです。

※東日本大震災の際、太平洋沿岸部

の合板工場が壊滅的な被害を受け、丸太の流通が完全にストップするという深刻な事態に陥った状況下で、遠方から積極的に木材を受け入れ、



㈱日新視察の様子



㈱日新にて集合写真

地域の林業再生に寄与された㈱日新・日新林業(株)の取り組みに、改めて深く感謝申し上げます。

《視察③》株式会社オロチ(鳥取県日野郡日南町)

2006年に日南町内の森林所有者が中心となり、株式会社オロチを設立、2008年、日野川の森林(もり)木材団地に新社屋を移転し、日本で始めて国産材による単板積層材(LVL)の生産を開始。10月に日本初JASの構造用LVL認定を取得。現在の従業員は73名。

【事業内容】

単板積層材「構造用LVL・造作用LVL」の製造・販売。

【単板の製造】

単板製造の多くは、原木の中心部分を支持し回転させ桂剥きして単板を製造しますが、同社の特徴は、ロータリーレーズで原木の外周部分を支持しながら回転させる「外周駆動方式」を採用し、残る原木の中心部は30mm程度と無駄なく原木を使うことができます。また、出来上がった製品をグレー

ディング(品質測定)するのではなく、先に、乾燥させた単板を一枚ごとにグレーディングすることがJASのルールとなっているそうです。

【スカーフジョイント】

LVLの長所は、乾燥した単板を木材の繊維方向(長さ方向)へつなぎ合わせて必要な長さで製品が作れることです。単板の端を斜めに切断し(切断面…スカーフジョイント)、接着することで単板を長さ方向へつなげる技術です。

スカーフジョイントすることで、高い強度と安定性・高品質が担保されます。構造用LVLのJAS規格は長さ、厚さによってスカーフジョイントの数が決まっているそうです。この単板を重ね合わせたのがLVLとなります。

【LVL製造】

スカーフコンポーザーでスカーフジョイントの位置を制御して長さ方向に均等に合わせた単板の表面に接着剤を塗り、重ね合わせて加熱・圧縮し単板同士を圧縮してLVLを製造します。多くのメーカーでは、厚

いLVLを製造する場合、1次接着で薄いLVLを作り、それを貼り合わせて2次接着で製造しますが、同社では、150mmの厚さまで1枚ずつ丁寧に1次接着でプレス製造するので、確実に接着すると、接着剤に含まれるホルムアルデヒドを効果的に揮散させることができるということです。

また、最も特徴的なのが、世界に1台、長さ9mまでの製品ができるプレス機を保有している事でした。

【株式会社オロチと東北のLVL】

株式会社オロチは、国内最大級のLVL合板工場と称される青森県上北郡六戸町ファーストプライウッド株式会社の設立にあたり、6ヶ月間の長期にわたりLVLの技術指導・研修を受入れるという強力なバックアップをしたそうです。

その功績によって、現在、東北・北日本エリアの林業・木材産業において重要な拠点となっております。

【販売エリア】

以前は関東までを販売エリアとしていましたが、現在は西日本が中心、

中国山地の一番「へそ」なので、岡山県、広島県、島根県までは30分かけてしまう立地条件。最近では、台湾に、3ヶ月に1回ほど、1コン



輸出する製品



株式会社オロチで集合写真

テナ37㎡で輸出をはじめたそうです。やっぱり日本製は評価が高い！と話がありました。

オロチLVLは、地元鳥取県はもとより、全国の住宅や公共施設で活用されており、温もりのある全室の木質化で、ゆたかな生活を育み、CO2削減、カーボンニュートラルに貢献しています。

《視察④》出雲大社（島根県出雲市）

出雲大社の構造は、日本最古の神社建築様式である「大社造り（たいしゃづくり）」が最大の特徴です。

本殿の構造は、約5・6m四方の正方形（二間四方）で、中心に太い柱（心御柱）があるため、左右非対称の構造で内部は「田」の字型に仕切られています。

屋根は、切妻造（きりつまづくり）で、厚い檜皮葺（ひわだぶき）が特徴です。また、千木（ちぎ）は、屋根の上にある交差したX字状に交差した部分で、屋根を支えるための構造材と由来されていますが、現在は装飾品としての役割となっているようです。

鯉木（かつおぎ）屋根の最上部の上には、棟に対して直角に並べられた短い丸太状の木材があります。重石として屋根を補強したり、雨による浸食を防いだりする実利的な目的から始まったとされています。

拝殿の注連縄が有名で、一般的な神社とは逆向きに張られているのが特徴です。



注連縄は今年の7月に8年ぶりに架け替えられます

各視察先とも、独自の先進的な取り組みが強く印象に残りました。ご多忙の折、ご対応いただいた視察先ご担当の方々に、改めて御礼申し上げます。

# トピックス

「TEAM 森林再生大船渡」  
モクコレでパネルや製品を展示  
被災木活用に向けた取り組みを  
行っています

昨年2月に発生した林野火災で被害を受けた岩手県大船渡地域の復興のため、被災木を選木・有効活用し、再造林を促進することを目的とした「TEAM 森林再生大船渡」が結成されました。川上から川下までの林業関係者が集まったこのチームには、NJ素流協も発起メンバーとして参加しています。

2月12日(木)～13日(金)、東京都で開催された「モクコレ2026」の岩手県ブース(岩手県林業振興課)において、被災木の強度試験結果や、安全性を受けて作製された被災木の合板・LVL等製品が展示され、NJ素流協からは、営業企画部八柳次長が、ブース案内役の1人として参加しました。製品にはTEAM 森林再生大船渡のロゴマークが印字され、林野火災被災木を活用したことが分かるようになっていきます。

山火事被害木の活用についての関心は高く、キー局3社及び岩手県のテレビ局2社からの取材がありました。

<b>北海道</b>
網走東部流域森林・林業活性化協議会 ／網走西部流域森林・林業活性化協議会
エステー・北都・釧路森林資源活用円卓会議
大澤木材
厚浜木材加工協同組合
札幌ベニヤ
新宮商行 鉄函工場
瀬上製材所
The St Monica
大沼木工
チャネルオリジナル/ウッドファミリー
中野製作所
HOKKAIDO WOOD
松原産業
丸善木材
メディアネットコーポレーション
<b>青森県</b>
日本の窓
モザイクスタイル
<b>岩手県</b>
一戸製材所
岩泉フォレストマーケティング
岩手県木材産業協同組合
岩手県林業振興課
木楽創研
くずまき工房
KUNOHE木工女子部(ふくしまデザイン)
シオン
高崎製材所
マルヒ製材
ライトリソース-KUNOHE木工女子部-
<b>秋田県</b>
秋田県木材産業協同組合連合会
秋田COI-NEXT
北鹿地域林業成長産業化協議会
<b>山形県</b>
ウッド・マイスター
佐藤工業
徳正合板
ニューテックシンセイ
林木工芸
山形県広葉樹利用拡大協議会 (アイタ工業、アイタ材木店)
ワンツ〜
<b>福島県</b>
松竹工芸社
タテログ推進協議会 本部
福島県木材協同組合連合会
福島県木材青年協会いわき支部
みなみあいづ森林ネットワーク



TEAM 森林再生大船渡の  
ロゴマークが印字されたLVL



岩手県ブースの様子

架線集材全国サミットに  
参加しました

2月5日(木)～6日(金)、長野県で架線集材全国サミットが開催されました。このサミットは、最新技術を導入した架線集材の取組を進めている木曾谷・伊那谷地域の事例を全国に発信するとともに、架線集材技術の継承と向上を図るために開催されたものです。

5日のサミットでは、最新の林業機械等展示や製品説明ブースが設置されるとともに、高知大学 自然科学系 農学部門 鈴木保志教授による基調講演のほか、先進事例報告やパネルディスカッションが開催され、NJ素流協からは3名が、現地とWEBで参加しました。

※6日は、長野県下伊那郡根羽村で架線集材の現場視察が行われました。

鈴木理事長が里山広葉樹  
シンポジウムで講演

2月24日(火)、東京都で、里山広葉樹活用推進シンポジウム「森の

彩を暮らしへ」が開催されました。

昨年度、林野庁が開催した有識者会議で、里山広葉樹の利活用に向けて、関係者の情報共有の基盤となるプラットフォームの構築が必要との提言がなされました。

その第一段階として位置づけられたこのシンポジウムでは、国産広葉樹の利活用に取り組んでいる企業等の講演が行われ、当組合鈴木信哉理事長が、講演者の一人として「広葉樹素材流通の課題とノースジャパンの取組み」と題して講演を行いました。

また、今後立ち上げ予定のプラットフォームのあり方について、各講演者によるパネルディスカッションが行われました。

### 山形県内管理署の

### 広葉樹勉強会に協力

### 鈴木理事長が講義

2月25日(水)、岩手教育会館で

山形県内森林管理署の若手職員約20名を対象に、鈴木理事長が広葉樹の動向について講義を行いました。

山形県の広葉樹は主に原材料として取り扱われています。そのため、岩手県の市場で取り交わされている広葉樹の現物を見ながら、採材方法などを勉強する目的で開催され、翌日は盛岡木材流通センター共販市を視察しました。

## お知らせ

### 令和7年度第2回林業講演会を開催します!!

令和7年度の第2回林業講演会を次のとおり開催します。

#### 【テーマ】

新たな木材利用促進制度の直近の動き  
〜ウッドチェンジ加速化〜

#### 【開催日】

3月18日(水)

13時00分〜16時30分

#### 【会場】

ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング(4階)

#### 【内容】

- ①森の国・木の街の実現に向けて
- ②建築物木材利用促進協定について

林野庁林政部木材産業課 上席木材専門官 鈴木清史氏 ①、②  
③木材利用促進協定締結企業の事例〜オフィス空間における木材活用は今!〜

株式会社イトーキ 商品開発本部 プロダクト開発統括部 第2商品企画部 小島勇氏

講演の後、鈴木理事長の進行により、講演者との意見交換を行います。

内容の詳細、参加申し込みにつきましては別途案内またはホームページをご覧ください。

他団体で事業者認定を受けている事業者もGHGの対応を!

令和8年4月1日より、GHG

適用のバイオマス発電所ではライフサイクルGHG算定が必要とな

り、バイオマス材の納入事業者はGHG対応の事業者認定(GHG認定番号)がない場合は材の納入ができなくなります。

当組合以外の認定団体から合法木材・木質バイオマス証明に係る事業者認定を受けている方は、改めてGHG認定の有無・必要性をご確認のうえ、今後納入の可能性がある場合は認定団体にご相談いただき、GHG対応事業者認定の取得をお願いします。

なお、GHG認定を取得した場合、認定番号確認のため事業者認定書を当組合までお送りください(FAX可…019-654-8533)。

### 営業企画部からのお知らせ 集成材用原木 不足しています

納入希望、ご相談等ありましたらN J素流協営業企画部までお願いいたします  
(019-652-7227)

# ちよつと気になる木の話

116

## 山火事被害木の活用について ー山主だけでなく、せつかく 育った木のために!!ー

報道の通り、岩手県大船渡市の山火事の被害面積・被害木本数ともに甚大である。被害木を伐採し、再造林を行って、豊かな山林に戻す計画も定まってきたところである。

しかし、山火事被害木を利用するには、行政だけでは困難であることは間違いない。学者でも、過去の出来事やデータからだけでは利用は全く進まない。一番は、川中の木材加工業者、川下の木材利用者かつ最川下(河口)に当たる民間企業・消費者の利用したいという声が必要である。

まずは、山火事被害にあつて、葉っぱが落ちた立木は迅速な伐採が必須である。葉っぱが落ちるといことは枯損木となる。しかし、立木の皮をぐるっと剥いで立ち枯れ状態にして、乾燥してから伐採する方法も古くから林業で行われていたことを考えれば、1年以内なら通常である。もちろん、辺材部まで焼けていれば辺材部は使えないが、辺材部を背板にすれば心材部利用は可能である。

山火事現場で丸太を見たが、アカマツは樹皮の黒焦げがあつても辺材にすら全く届いていなかった。スギでも本当の樹皮近くの辺材部分だけ黒焦げの丸太が多かつた(もちろん被害の程度にもよるが)。実際に試験挽きした合板工場によれば、ロータリーレーズで2〜3枚ハネ品にすれば、通常通り使えると話していた。製材にしても、木取りを考えれば問題ないと思われる。こうして、通常用途で使えるものは、早期伐採、早期運搬、早期加工が一番良いことであるのは当然である。工場側では、パーカーや鋸の傷みが速いと懸念を話す人もいるが、その修理費分は別途丸太購入価格で最後調整可能である。

早く伐採すれば、造林も早まる。双方とも人員を被害当だけで集めるのは困難である。当然、地域外県内、県外からの応援業者も必要である。東日本大震災をはじめ、最近の能登地震でも、ボランティアだけでなく、技術・技能に長けた専門業者の応援・活用も必須である。雪が降ることが少ないエリアであり、冬場の豪雪地帯の業界活用も期待できる。

さて、使える丸太は通常用途で使つた上で、少し時間が経つて、枯損状況が少し激

しい木の活用について、私なりの用途を考えてみたい。

### 1・被害木を会社の備品・内装等に利用

一般の住宅・非住宅用だと購入者に迷惑はかけそうだと考えている企業であっても、自社の中で被害木利用して、CSRしたいという大手企業は多いと考えている。社内の食堂とか休憩所のベンチ、テーブル、棚等へ利用したいという企業を公募して、協力できるオフィス家具メーカー、木工所とタッグが組めるといい。

### 2・大手・中小ゼネコンの仮囲いに利用

今、林野庁との木材利用促進協定の締結者を見ると、大手ゼネコン目白押しである。しかし、東京等へ行くと、ビルの建設現場は軒並み鉄板の仮囲いである。その上に、子供の緑を書いた絵を貼ったり、環境にやさしいことをPRしている。3年近く工期がかかるものであれば使い捨てである。LVLなら長さも自由にできる。言い換えればLVB(ボード)である。山火事被害木利用、再生活動の表示を武器にすれば、巨大な需要につながるはずである。もちろん、地方のゼネコンでもある。

### 3・魚箱利用

大船渡は漁業が盛んである。かつて、今のB材(合板・集成材ラミナ用)が無かつた時代、B材として魚箱用が生産流通して

いた。名称としては、一般材(低質材)であつた。発泡スチロールは海洋汚染につながっているとされる今、漁協と組んで魚箱利用につなげるのも一手である。

### 4・災害用土木利用

各地で利用拡大している治山事業での残存型枠用として利用したり、災害防止用の仮土砂止め板(H形鋼の間に木をはさみこむ)、秋田県でよく使われている「工事中」の木の標識等への利用を図ることも行政主導で特記事項に掲載すれば、採用は簡単である。

### 5・太い木杭

真に今、CO2排出から木を利用した時のカーボンストック量をマイナスして、カーボンニュートラルに向けた制度が始まるところである。被害木でも、太い木杭にして、地中に埋め込めば30年、50年持つ巨大なカーボンストックとなる。これを活用したいCO2大量排出企業に勧める意義は大である。

こうした取組を先頭にして、最後に、バイオマス燃料にするのがメインロードである。そして、再造林に興味がない山林所有者がいたら、こうした利用企業に社有林として売買仲介して、CO2吸収量を会社で使うのも途かな。

協力したい企業があれば、是非手を挙げてくださいとの強い思いである。

令和8年2月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	13,338	109.8	93.5	14,944	118.2	111.9	28,282	114.1	102.4
カラマツ	3,769	74.2	65.6	1,411	136.1	611.9	5,179	84.7	86.6
アカマツ	3,898	220.0	163.8	0	0.0	0.0	3,898	212.0	160.5
その他	90	485.7	140.5	437	178.4	65.8	527	199.9	72.3
合計	21,094	111.0	94.0	16,791	120.0	117.5	37,886	114.8	103.1

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	930	73.8	35.7
カラマツ	3,387	136.3	112.3
アカマツ	523	55.5	60.9
その他	1,027	100.6	100.0
合計	5,866	102.8	78.2

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	132,020	173,614	305,634	38,228
カラマツ	64,817	6,415	71,232	45,931
アカマツ	27,363	331	27,695	10,003
その他	245	3,040	3,285	10,042
合計	224,445	183,400	407,846	104,203
目標達成率 (%)	89.8	99.1	93.8	86.8
計画量	250,000	185,000	435,000	120,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和8年2月の需給動向】

- 製材・集成材・LVL工場ではスギ原木不足が続く。雪解けも早く今後の出材に期待する。
- 合板工場は冬期間アカマツ不足の状況ではあったが出材が順調となり、必要在庫を確保した。
- カラマツは集成材および合板工場において引き合いが強い状況が続いている。

耳からウロコ

アカマツ人工林 ナンバー1 岩手県 何故？

トドマツ大型製材 北海道進出とかぶる

岩手県では、戦後のアカマツ人工林が伐採適期を迎え、合板工場の強度の高いアカマツ利用の需要とベストマッチングしているといえる。アカマツ人工林が、こんなにあるのは何故？

「造林宝くじ」でしょうか!?でも造林宝くじなら、スギ、ヒノキ、カラマツのどの樹種でもいいじゃん。岩手の中でも寒冷な地域は、スギ、ヒノキではなく、カラマツ適地である。当然、初めは「造林宝くじ」の資金も使ってカラマツを植林したのであり、合板工場で同様に需要の高い伐採適期のカラマツ供給のメッカとなっている。ところが、ある時に、造林樹種がカラマツからアカマツへ急激にシフトしたのである。

それは、カラマツ先枯れ病の大発生にある。これでは、これからはカラマツを植えてもダメだということで急転回したのである。宮城県北部では、植えた若いカラマツを伐って、スギに全部植え替えたと話し、今のカラマツの価格を考えれば、そのまま成長させれば良かったと悔やむ声も聞かれている。病名はカラマツ先枯れ病だった。マツ枯れ、ナラ枯れと違い、何故か先枯れだった。そして、案外と全て枯れたと思いきや復活したカラマツ山

も多いのである。先枯れだけだったのか。

そのため、北海道国有林は造林樹種をカラマツからトドマツへ急転回した。地力の悪い場所には、エゾマツ、アカエゾマツの造林も行われた。その結果、カラマツよりちよつと遅れて、トドマツの伐採適期が近づいている。

今後のトドマツ供給量が増加すると見込まれる中、四国の製材工場が大型製材工場を北海道に建設する理由は理にかなっているかなあ。

でも、北海道国有林のカラマツ山は、全て伐って植え替えたのだろうか？北海道での署長時代、カラマツ林分は成長して、森林簿以上に、あちこちで見られた。森林簿以上のカラマツ林分の名称は、「育成天然林」である。特別経営時代、自前の資金で造林費を支出していたため、植え替えではなく、育成天然林を選択したとの先輩からの説明だった。しかし、枯れずに成長し、30年以上前の時代、カラマツの価値は今ほど高くなかったため、そのままとなってしまった。

今、北海道のカラマツ資源は、過伐に近づき、安定供給に不安が高まっている。再チェックの適期である。でも、森林簿を見て、施策計画を立てると分らないかもなあ。当時の私としては、育成天然林分を再度小班区画してカラマツ人工林にしたいと思っていたのである。

北海道の天然林に本州移入樹種であるカラマツは無いよね！育成天然林内にドイツトウヒもあつたね。時は変化する。その時にチャレンジするのが本当である。「時の流れに身を任せ」脱出。